

■ 基本的な考え方

【リニア中央新幹線開業時の姿】

リニア中央新幹線開業時を目指して、早期にリニア効果が発現できるように、必要な交通結節機能の確保と空間形成を行います。そのために、当面、駅前広場は**平面レベルの限られた空間の中で機能確保**を行います。

(注) 交通結節機能について、隣接エリアの活用も含めた検討を行う

【西側エリアの目指す姿】

リニア中央新幹線開業後のできる限り早期に、スーパー・メガリージョンの中心にふさわしい**重層的な拠点の形成**を目指して再整備を行います。そのために、関係者との調整を十分に進めるとともに民間事業者との連携を深め、施設配置や動線等について多様な視点による検討を行います。

■ リニア中央新幹線開業時の姿

- ・ リニア中央新幹線開業を迎えるために必要な交通機能の確保と空間の形成を、駅前広場の南側で図ります。

(整備イメージ)



- (注) 駅前広場の北側ではリニア中央新幹線名古屋駅新設工事に伴う復旧工事等が見込まれる。
 (注) 西側エリアの目指す姿の内容・工程を踏まえ、リニア工事に伴う復旧工事等とも整合を図りつつ、段階的な整備を検討する。
 (注) 既存の地下街及び地下駐車場は現状の利用を基本とする。
 (注) 「新たな路面公共交通システム(SRT)」と整合を図る。
 (注) 駅前広場内に自転車駐車場等を配置することを検討する。
 (注) 隣接エリア・駅前広場でバス乗降場等の交通機能を配置することを検討する。
 ※1 SRTの乗降・待合空間の検討箇所。(既存の自転車駐車場の台数を確保する必要がある)
 ※2 広場・駅前広場内にリニア関連施設が配置される予定。
 ※3 高速バス待合等・交番についてはリニア開業時に移設(予定)し、移設方法等は「西側エリアの目指す姿」と整合を図る。

① 顔となる広場の整備

リニア中央新幹線の玄関口にふさわしい「広場空間の形成」



② まちへの動線の確保

駅とまちの主動線につながる「歩行者空間の拡幅」



※半透明の施設は今後検討が必要

③ タクシースペースの改善

ユニバーサルデザイン等に配慮した「利用しやすい乗降場の配置」